

「指導者や保護者として大切にしたいと思うこと」

2018年10月2日

広島地区ミニバスケットボール連盟

副会長 大庭浩資

今年8月に出版されたばかりの「補欠の力」という本の中に、広陵高校の中井監督や野球部OBのコメントが掲載されているのですが、心に響くものがたくさんありましたので紹介します。

「指導」「教育」とは何だろう。どこを目指して、何を教え、目の前の子供たちとどう関わっていけばよいのだろう。そのヒントが詰まっているような気がします。

また何かの機会に話題として取り上げていただければ幸いです。

『補欠の力』（元永知宏：著）

～ 広陵OBはなぜ卒業後に成長するのか？ ～

中井監督のコメント

<その1>

- ・どこに行っても耐えられる力をつけさせたい。大好きな野球を通じてね。甲子園という大きな目標があって、そこに向かって歯を食いしばって頑張ることで生きる力がつく。世の中は、その子が思うような世界ではないかもしれん。でも、人のせいにすることなく、最後まで辛抱できる人間になってほしい。

<その2>

- ・だいたい、道具を大切にしない選手はうまくならないじゃないですか。ものを大事にしないということは、親を大事にせんということと同じ。親を大事にせんやつは、えらくもうまくもなれるはずがない。そんなんでは、人に必要だと思われる人間にならんと僕は思うんですよ。

<その3>

- ・試合に出ることだけが甲子園じゃないと僕は思っています。アルプススタンドで大きな声を出すのも、太鼓を叩くのも、校旗を持つのも甲子園です。ベンチ入りするのも、スコアブックを書くのも、マウンドに上がるのも、バッターボックスに立つのもそう。それぞれに甲子園があるんです。

<その4>

- ・『ポジションは補欠です。3年間野球をやりました。』と胸を張れるのがかっこいいと僕は思います。そのことを評価してくれる大人を大事にせえと言っています。『おまえは、レギュラーじゃなかったのか・・・』という人は、それだけのものですから。

<その5>

- ・レギュラーになれなかった控えの選手が、チームのために裏方に回る。控えの選手の思いで、広陵高校野球部はできている。高校でレギュラーかどうかなんか関係ないんじゃない。おまえらは、人生に勝て！

<その6>

- ・高校3年間は、修行でいいじゃないですか。今しかできないことが、いずれ役に立つと思います。高校を卒業してから野球を続けない子も、違う分野で活躍しています。

OBのコメント

<有原航平（現日本ハム）>

- ・野球をやるために広陵に入ったつもりだったが、中井先生には、『甲子園に出ることが目標じゃない。立派な男になるために今がある。野球選手である前に、人間が大事。』と言われ、人間としての部分、生活面の指導を多く受けました。

<小林誠司（現巨人）>

- ・仲間を大事にする気持ち、脇役として誰かを支えることが大事だと、広陵高校の3年間で教わりました。今の自分があるのは広陵のおかげです。野球だけじゃなくて、人としての生き方を教えてもらいました。広陵で培ったものは、どの世界に行っても、どの社会に行っても生かされているんじゃないかと思います。

<野村祐輔（現広島）>

- ・中井先生は、レギュラーで出る選手よりも控えを大事にされる方です。僕たちが甲子園で準優勝したときに、控えの3年生にメダルをかけて一緒に写真を撮りました。

<上原健太（現日本ハム）>

- ・中井監督から、野球のプレイの結果について厳しく言われたことはありません。技術についてよりも、プレイの中でのしぐさ、普段の生活態度やあいさつの方が多かった。野球の外側の部分ですね。